

銀河レポート401

No. 59
4月号

発行日：令和2年4月1日
編集&発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700
HP：<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/museum.html>

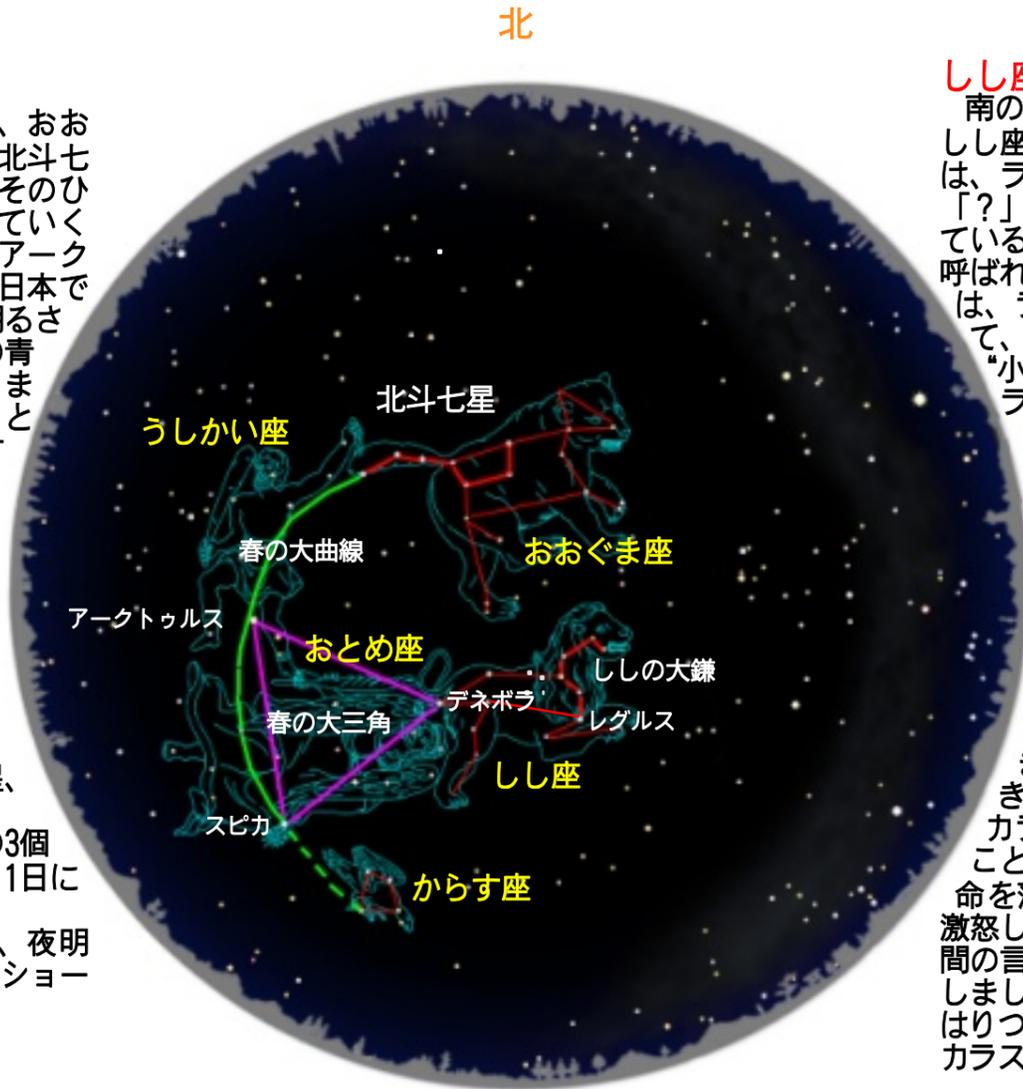
4月の星空

春の大曲線と春の大三角の星々

春の星空を眺めると北の空高くに、おおぐま座の一部のひしゃくの形をした北斗七星がひととき目立って見られます。そのひしゃくの柄の曲線に合わせて伸ばしていくと、うしかい座のオレンジ色に輝くアークトゥルスが東の空に見つかります。日本で見られる星座の星の中では二番目の明るさの星です。さらに伸ばすとおとめ座の青白く輝くスピカが南東の空に見つかります。この大きな曲線を「春の大曲線」と呼びます。曲線のさらに先に、からす座をつくる四角形が見つかりますが、暗い星たちなので目を凝らす必要があります。そして、アークトゥルスとスピカ、しし座のデネボラを結んでできる三角が「春の大三角」です。

木星、土星、火星、月が集合

4月上旬から下旬の夜明け前(4時頃)の南東の空には、西から、木星、土星、火星の順に3個の惑星が並びます。そして、4月中旬の数日間には、その3個の惑星の少し下を、月が西から東へ、1日に約12°移動しながら通り過ぎます。今年の春は、3月に続いて4月にも、夜明け前に3個の惑星と月との素敵な天体ショーを楽しむことができます。



4月15日21時の星図

南

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

しし座

南の空高くに、おおぐま座と並んで、しし座が見られます。しし座の見つけ方は、ライオンの頭にあたるハテナマーク「？」の裏返しの形です。草刈り鎌に似ているので、「獅子(しし)の大鎌」とも呼ばれています。古代エジプトにおいては、ライオンは王様の象徴とされていて、その心臓の星であるレグルスは「小さな王様」という意味があります。ライオンの尻尾にある星は、「春の大三角」を形づくるデネボラで、「獅子のしっぽ」という意味です。

からす座

カラスは、日本神話では「八咫(やた)がらす」という「導きの神、太陽の化身」として語られています。ギリシャ神話でも太陽の神アポロンに仕える銀色の翼をもつ美しい鳥でした。また、人間の言葉を話すことのできた賢い鳥でもありました。しかし、カラスがアポロンの恋人コロニスのことでウソを言ったためにコロニスは命を落としてしまいます。アポロンは激怒して、カラスの翼を黒く塗り替え人間の言葉を取り上げて、天にはりつけにしました。からす座の四つの星は、天にはりつけにされた時の銀のくぎなのです。カラスのひっそりと輝く姿は悲しげです。

はじめてのプラネタリウム

幼児や赤ちゃんと一緒にプラネタリウムを楽しみたい！そんなご家族を対象とした番組です。泣き出したりおしゃべりしても大丈夫！みんなと一緒にプラネタリウムデビューをしませんか？

日時：4月10日(金)、17日(金)、19日(日)
24日(金)、4月29日(水・祝)～5月6日(水・休)、5月17日(日)
10時05分～11時00分



※前半は星のお話をします。後半は「なないろどうわプラネタリウム」を放映します。
※プラネタリウム内は通常より明るくしています。

第3日曜日はベビーカーDAY 原作絵 真珠まりこ 制作 micromuseum-lab inc.

コスミックスクール

「お星さまをつくろう！」

「なないろどうわプラネタリウム」に出てくるいろいろな色を使ってお星さまをつくりましょう。

日時：4月29日(水・祝)～5月6日(水・休)
11時～12時30分(受付は12時まで)
場所：5階 コズミックラウンジ
料金：無料
※幼児対象(保護者同伴)

4月のガリレオ教室

「はやぶさ2のひみつ」

小惑星リュウグウのサンプル採集に成功した探査機はやぶさ2の現在の状況について天文ボランティアがわかりやすく解説します。



日時：4月12日(日)
①11時から11時20分
②14時から14時20分
場所：5階コズミックラウンジ

★★観望会★★

《天文ボランティア主催観望会》
日時：4月4日(土)
時間：19時から20時30分
場所：博物館前市民公園
内容：金星とすばるを見よう

※天候不良時は中止です。
※当日は自由参加・無料です。
※きらら号は出勤しません。

《博物館主催きらら号観望会》
日時：4月25日(土)
時間：19時30分から21時
場所：博物館前市民公園
内容：金星を見よう

※天候不良時は中止です。
※当日は自由参加・無料です。

4月の月

1日		上弦
8日		満月
15日		下弦
23日		新月

編集後記

霞のかかったようなやわらかで潤いのある春の夜空に浮かぶ月は、朧月(おぼろづき)と呼ばれ、秋の月とは違った魅力があります。日本をはじめとして東洋では、月は美しく愛でられる存在でした。「小倉百人一首」の和歌の中には月を詠ったものが10首ほどあります。星だけでなく、月を楽しむ文化も大切にしていきたいですね。